

みな幸せそうだ。半裸の男どもがゆったりと太極拳に興じている。瘦せた老人が独り胡弓を奏でる。傍らでおばさん五十人ばかり、大声で歌いながら踊っている。周りに子どもたち。地面で男児

窓のそとは、森

⑧長安と京都と破門

慶應義塾大学大学院
メディアデザイン研究科教授

中村 伊知哉



どもがメンコをしている。隣の路面の石に、水をしたたらせた筆で草書を走らせる子もいる。バック転をする娘。ほめると何度も繰り返す。幼いガキが道端にしゃがみ脱糞している。なぜだろう、じー



んとなつかしい。
長安。今
の名を西安
という。紀
元前十一世
紀から十世
紀初頭まで
十三の王朝
が都を置い

た街。始皇帝の兵馬俑坑をそぞろ歩くと、仏、独、伊、ポルトガル語が乱れ飛ぶ。英語が聞こえない。大陸を征くシルクロードの入口だと感じさせる。路地を歩くと、モスクに出くわす。イスラムの出口だと感じさせる。そう、これぞ国際都市。

玄奘がインドから帰って六五二年に建立した大雁塔を、ふうふうと上りつめ、見下ろした。何千年もの間、こうして、民族も、宗教も、交配してきたんだ。今も踊ったり、遊んだりしているんだ。私は京都人である。京都がコピーした長安を訪れるのは人生の宿題である。この塔は、古都の南にあるタワーだから、さしずめ京都タワー、なのだな。

いや、違う。確かに京都は国際

都市だ。先日、米国誌による観光都市ランキングで、京都市が二年連続で世界一位に輝いたという報道があった。京都は長安先輩に対し鼻が高かろう。だが待てよ。確かに京都はここんとこ西洋人が多くて垢ぬけている。そうだ、京都行こう、と思わせる。

だけど、私が幼かったころの光景は、もうない。地面でメンコしたり、道に字を書いたり、飛び跳ねたりする子の姿は見かけない。脱糞するヤツは当時もいなかったが、肥溜めの中味を撒き散らすヤツはいた。そんなガキどもの声は消えた。清楚で上品になった。観光地として世界一になった。それでみんな果たして幸せになったのだろうか。

あ。タワーでそんなことを考えていて思い出した。そんなガキだった私は、郵便局の世話になっていったんだ。左京郵便局（今の岡崎郵便局）の空手部に、つてを頼って入れてもらったのだ。私と同級生のY君の二名は毎週数回、地下の道場に通っていた。

ガキというのは、ガキなことをする。その道場は柔道部と共用だ

ったのだが、何かの弾み、私とY君は、カベに「柔道部のアホ」と落書きした。アホはお前らや。大人に見つかり、ボコられて、即座に「破門」となった。謝る機会もなく追放だ。

人生初の破門である。以後も破門の経験はない。就職時の履歴書、賞罰の欄に、左京郵便局空手部破門とは書かず、隠した。後ろめたさを引きずり、たまに思い出す。関係者のみなさま、あのときの落書きの犯人は私です。この場をお借りしておわび申し上げます。京都はそんなアホなガキがおらんようになって、世界一になったんでしよう。

本日は、悠久の長安の話から、しよーもない告白になってしまい、すみませんでした。

プロフィール 一九八四年郵政省入省。橋本行革で省庁再編に携わったのを最後に退官し渡米。一九九八年MITメディアラボ客員教授。二〇〇二年スタンフォード日本センター研究所長。二〇〇六年より慶應義塾大学教授。社団法人融合研究所所長などを兼務。著書に『コンテンツと国家戦略』（角川Panorama選書）など多数。